

コンテナラウンドユース推進協議会設立準備委員会の進め方 協議会のイメージについて

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会

1. コンテナラウンドユース推進協議会設立準備委員会の進め方

コンテナラウンドユース推進協議会設立準備委員会（以下「準備委員会という。」）の今後の活動計画（案）は以下の通り。

（1）第1回委員会

<開催日時・場所>

11月28日（金）16－18時 経済産業省

<議題>

- ①準備委員会の趣旨・目的・今後の活動計画
- ②各社の取組について
- ③コンテナラウンドユースの今後の課題について

（2）第2回委員会

<開催日時・場所>

12月24日（水）15－17時 日本ロジスティクスシステム協会（予定）

<議題>

- ①各社の取組について
- ②複数荷主間連携での取組
- ③コンテナ管理方法（修復・洗浄・荷役）、インランドデポの機能・役割について
- ④新しいコンテナラウンドユースの形態の推進について

（3）第3回委員会

<開催日時・場所>

2月上旬 日本ロジスティクスシステム協会（予定）

<議題>

- ①複数荷主間連携での取組
- ②コンテナ管理方法（修復・洗浄・荷役）、インランドデポの機能・役割について

- ③新しいコンテナラウンドユースの形態の推進について
- ④協議会を含めた今後の取組の枠組みのあり方について
- ⑤今後の活動について

(4) コンテナラウンドユース推進シンポジウム（仮称）

<開催日時・場所>

3月12日（木）PM開催予定

2. コンテナラウンドユース推進協議会のイメージ（案）

(1) コンテナラウンドユースの取組は、関係者にとりメリットがあり、その取組を推進していくべきものとするが、現状、実際に取り組んでいるのは限られた事業者間の取組に限られており、必ずしも産業界全体を巻き込んだ取組とはなっていない。その理由としては、以下のような課題が考えられる。

- ①情報共有の場が限られている。
- ②コンテナラウンドユース実施方法等の情報提供や普及啓発が十分でない。
- ③コンテナラウンドユース推進に向けたルールや仕組みなどの調査検討が十分でない。
- ④コンテナラウンドユース推進のための政策提言等を発信する場が限られている。

(2) コンテナラウンドユースを推進していくための方策としては様々な施策が考えられるが、以上のような課題を踏まえると、幅広い関係各者が連携し、コンテナラウンドユース推進に当たって生じる様々な課題を認識し、解決の方向性を探るとともに広く情報を共有し普及につなげるための協議会を立ち上げることが必要であると考えられる。協議会のイメージ（案）としては、以下のようなものが想定される。

- ①協議会は官民連携してコンテナラウンドユースを推進する場。
- ②協議会の事務局は公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会（JILS）が担い、関係省庁と連携して取り組むことを想定。
- ③協議会は任意の（公的常設組織ではない）組織として、希望者が幅広く参加できるオープンなもの。
- ④協議会の参加者は、荷主、輸送事業者、船社、港湾関係者、地方公共団体等の CRU に何らかの関わりがある全ての主体とする。また、参加者は協議会の活動に自由に参加できることとする。

等

(参考)

コンテナラウンドユースを推進していく上での各主体のメリットは、以下のようなものが考えられる。

コンテナラウンドユースのメリットの一例

<共通>

- ・ 輸送時の省エネ・省CO2
- ・ 港の渋滞緩和による定時的な輸送
- ・ 輸送コスト削減及びリードタイム短縮

<輸出荷主>

- ・ 空コンテナの定時的な確保

<輸送事業者>

- ・ トラックの回転率向上・ドライバーの負担軽減

<輸送事業者、船社>

- ・ 荷主に対するアピールポイント

<船社>

- ・ バンパールでの積み下ろし料金の削減と港間の輸送コストの削減

以 上